

とよかわイナリズム地区

(愛知県豊川市)

- 計画期間 平成17年～平成21年
- 面積 164ha
- 交付対象事業費 1,901百万円
- 市人口 161,073人 (地区内人口 5,500人)

ポイント 豊川稲荷表参道を中心に賑わい形成を目指す官民協働のまちづくり

地区概要 商業者たちのまちづくり活動を支援すること等により、交流人口の増加を図るとともに、基盤整備を推進することにより、定住人口の増加を図り、交流人口と定住人口の好循環により、都市の再生を図る。

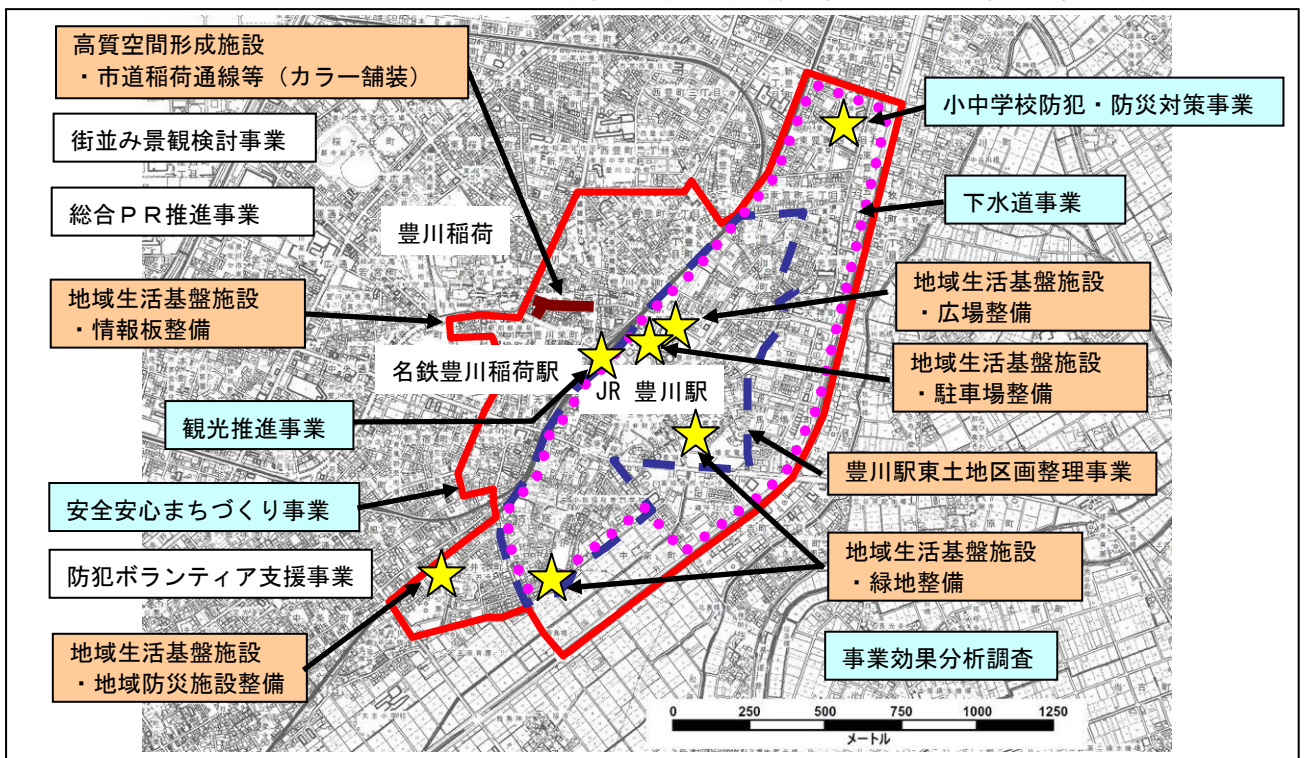
目標 土地区画整理事業等の基盤整備による定住人口増加と、観光商業推進に資する事業等の実施による交流人口の増加を図るとともに、それぞれの相乗効果が生み出す好循環により、観光立国の理念である住んでよし、訪れてよしの国づくりを、豊川の観光の象徴である「豊川稲荷」と定住の「住む」を掛けあわせた「とよかわイナリズム(豊川稲荷☆住む)」流に実現を目指す。

指標 「住んでいいじゃん!訪れてもいいじゃん!」を評価する指標として、地区内人口と乗降客数、駐車台数、道路用地比率を設定した。

乗降客数	2,207,543人/年 (H15)	→	2,296,314人/年 (H22)
駐車台数	124,945台/年 (H15)	→	143,000台/年 (H22)
地区内人口	14,877人 (H16)	→	15,000人 (H22)
道路用地比率	17.7% (H15)	→	20.9% (H22)

事業内容 基幹事業 (1,660百万円) → 緑地(2箇所)、広場(2箇所)、駐車場(4,000㎡)、情報板(7箇所)、地域防災施設(1箇所)、高質空間形成施設(カラー舗装 延長 283m)、土地区画整理事業(53.7ha)

提案事業 (241百万円) → 公共下水道事業(96ha)、安全安心まちづくり事業、小中学校防犯・防災対策事業(1校)、観光推進事業(1箇所)、事業効果分析調査



地区の現況と課題

本地区は、日本三大稲荷のひとつである豊川稲荷により「観光のまち」として賑わってきたが、レジャーの多様化、信仰心の薄れなどを背景に観光客が減少しており、地域経済も低迷し、まちの魅力が薄れてきている状況である。現在、本地区では、この現状を打破しようと、市民や商業者たちが主体となり、「できることから始めるまちづくり」を合言葉に、まちづくりイベント「いなり楽市」の実施など、まちづくりに取り組んでいる。

提案事業の特徴

安心安全まちづくり事業

豊川駅東西自由通路への防犯カメラの設置、道路補助照明灯の設置など、観光客や住民にとって、安全安心なまちづくりを推進する。

TMO推進事業

関連事業のTMO推進事業で実施されている「いなり楽市」などのまちづくり活動への支援を行ったことにより、行政の出資に頼らない民間資本だけのまちづくり会社「㈱豊川まちづくりそわか」が設立され、継続的にまちづくりを地元が自発的に行うことができる組織が構築されている。

また、TMO推進事業では、門前町の商店街のファサード整備を行っている。少額の投資で外観を和風に改装することで、店舗自体の、ひいては商店街自体の魅力を高めている。

街並み景観検討事業

景観整備の方策について、商店街と豊橋技術科学大学、TMO、市が協働して検討を行った。街並みについて会合を重ね、建物や道路のイメージを決め、地区計画の策定やカラー舗装、ファサード(店舗の正面部)整備の実施に至っている。

その後も、地元の景観整備を支援するため、大学のサテライト研究室をまちづくり会社の店舗内に設け、景観の調査・提案を行っており、継続した景観整備が行われている。

計画策定プロセス

毎週木曜日に地元まちづくりの会合がある。行政は基本的に発言せずに、オブザーバーのような形で参加する。地元のまちづくりに対する議論の中で、できることは地元で行い、例えばイベントで道路使用許可が下りない場合に、行政としては地域再生計画の認定をとって道路使用許可の円滑化を図る、といった形での支援を行っている。まち交事業である門前町の道路景観整備においても、最初の働きかけは行政であったが、実際の整備に際しては、会合を通じて地元の機運が高まった時点で行ったため、地元説明会への参加の呼びかけや工事中の通行止めの調整等に地元が積極的に関与し、円滑に事業を進めることができた。また、工事後もイベント時などには、街並みやカラー舗装の色合いを活かした通りの飾り付けを行い、観光客などを楽しませている。



▲高質空間形成施設



▲豊川稲荷の賑わい



▲いなり楽市開催時の門前町



▲いなり楽市名物「ちんどんや」



▲通りの景観を考える会合

豊川市長山脇実氏のコメント

豊川稲荷の門前町を含む「とよかわイナリズム地区」は、本市の顔というべき地区ですが、近年のライフスタイルの変化などにより、来街者が減少し、中心市街地としての活力が減少しつつある地区でした。

そこで、まちづくり交付金事業により、基盤整備の遅れのあったエリアの区画整理事業とあわせ、門前町の景観整備事業や必要なソフト事業などを、地元住民の皆さんと協働して実施いたしました。

地元住民の皆さんのまちづくり活動も積極的であったこと、まちづくり交付金事業も効果的に実施できたことから、当該地区は、ようやく活性化の兆しが現れるようになってまいりました。

当該地区では、まちづくり交付金の柔軟な制度内容から、地元の皆さんのまちづくり意欲の向上など、機が熟した絶好のタイミングで事業が実施できたことにより、地元住民の皆さんが主体となり、継続的にまちづくり活動が行われる基盤を整えることができました。まちづくり交付金事業について、採択していただいたことに御礼を申し上げます。

(株)豊川まちづくりそわか（純民間まちづくり会社）社長コメント

私どもは、「いなり楽市」などのソフト事業先行で、まちづくりを進めてきました。まちづくりが盛り上がるにつれて、道路の整備幅員やカラー舗装整備などのハード整備について、自発的に取り組み、考えてきました。まちづくり交付金により、私どもが考えてきた、道路のカラー舗装が整備され、豊川稲荷の表参道らしい異空間となり、来街者が増加しており、まちづくりに手応えを感じています。このような経験が、まちづくりの次のステップとして、民間資本だけのまちづくり会社設立へ繋がりました。

まちづくり会社では、休憩所の開設の他に、文化教室の実施、オリジナル商品の開発を行っています。まちづくり会社が運営している休憩所（いっぷく亭）では、来街者の休憩場所のみではなく、住民のコミュニティ形成の場にもなっており、このまちづくり会社の活動が地区の活性化への刺激となっています。

今後も、まちづくりを継続し、賑わいの復活を図っていきたいと考えています。



▲まちづくり会社外観

いなり楽市実行委員会副会長のコメント

私どもは、「できることから始めるまちづくり」を合言葉に、ソフト先行でまちづくりを進めてきました。「いなり楽市」は、4人で始めたイベントからスタートしましたが、手づくりの景観整備や地域情報の発信、名物商品の開発などを繰り返していくうちに、このまちづくりへの賛同者が増え、また、お客さんも毎回のようになり増加し、今では、2万人を集めるまでに成長しました。

まちづくり交付金により、こうしたまちづくり活動を支援していただき、私どもが協議してきたことが、景観整備として形になり、私たちのやる気になっています。これらからも、より多くの市民や商店主を巻き込んだまちづくりを推進し、より多くのお客さんをお越しいただけるまちになるように活動を続けていきたいと思っております。